

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.39



牧野正吉 (1905-1994)

3月号は、日光市出身で、戦時中芦野に疎開していた水彩画家・牧野正吉を紹介します。

牧野は、明治38年8月2日に現在の栃木県日光市に生まれました。大正14年に青山師範学校本科第一部を卒業すると、教職に就くかたわら、本郷絵画研究所で画業を学ぶとともに、石井柏亭、赤津隆助、加藤静児に師事し、日本水彩画会に出品を続けました。昭和3年、23歳のときに同会会員に推挙されると、同5年には「南豆風景」で第9回帝展に入選、同8年には第20回二科展に「高原の路」で入選するなど活躍を続けました。

昭和11年、牧野は初めて尾瀬に行く、たちまち尾瀬のとりことなり、生涯をかけて尾瀬を描き続けました。戦後には尾瀬をテーマにした個展を上野・松坂屋で開催するな

どしています。

昭和8年、牧野は本郷区駒本小学校図画専科訓導となり、ますが、徐々に戦争の影が忍び寄ってきます。昭和19年、牧野は同校の学童集団疎開責任者となり、児童・教職員合わせて約150人を引率し、芦野に疎開しました。(このとき伊王野村、両郷村にも分かれて疎開したといひます。)芦野町への疎開に関しては、芦野町助役であった三森一郎氏が尽力したといひます。黒田原駅に着いたときには、黒田原国民学校児童の歓迎を受け、芦野に到着すると赤飯がふるまわれ歓迎を受けました。児童らの疎開先は建中寺・最勝院があてがわれ、牧野は建中寺の学寮長として疎開生活を送ることとなりました。児童によって疎開期間は異なりますが、短くても7カ月、長い時には1年6カ月疎開していたといひます。

昭和21年4月、学童集団疎開は引き揚げとなりますが、牧野はその後たびたび芦野を訪れ、芦野の風景をスケッチし、水彩画や油絵を描きまし

た。昭和40年には那須町でも個展を実施するなど、那須町との縁を大切にしました。

現在、那須高原には多くの芸術家が居住していますが、牧野はその先駆的存在であったと言えるかもしれません。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



牧野が疎開生活をした建中寺

かつこう

「いただきます」元氣な声が教室に響き渡り、子どもたちは嬉しそうに給食を頬張ります。学校生活で、この時間が楽しみという子は多いのではないしょうか。町では、食育の一環として、給食で提供する米を町内産にするなど、地場産品の使用に努めています。子どもたちへ地域の食文化や産業について伝えたい、生産者や食ベ

物への感謝の気持ちを育んでほしいという思いがあるからです。また、町内すべての小中学校には調理室があります。出来たての給食をいただくことで、食べ物への関心を深めることを期待しています

▼学校給食は、1889(明治22)年、山形県鶴岡市(現在)の私立小学校で昼食を提供したのが始まりといわれています。以来、一時中断された時期があったものの、今でも成長期の子どもたちにとって、なくてはならないものになっ

ています▼親になり、久しぶりに給食をいただく機会がありました。「親子給食」という行事で、もう一度給食が食べられると、ワクワクしてその日を迎えました。運ばれてきた給食を一口いただくと、「おいしい」優しくて、懐かしい味が口いっぱいに広がりました▼さまざまな人たちが経験してきた給食、また食べたいと思える給食が、子どもたちにとって、安全で、安心で、ワクワクする存在であり続けてくれることを願います。

こんにちは

赤ちゃん



令和5年11月生まれ

ひらくい
平久井

みちと
道音くん

みちとくんは...

じいじとばあばが大好き♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口

(2月3日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数 10,790 世帯 (- 51)
・人口 23,589 人 (- 108)
男 11,759 人 (- 71)
女 11,830 人 (- 37)

出生 6 人 (- 5)
死亡 68 人 (+ 29)
転入 62 人 (- 17)
転出 105 人 (+ 46)
その他 3 人減

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

